

「横浜の都市づくり」に提案する

都市づくりへの市民の発言

アンケート結果および市政モニターの
手紙より



調査室

1——はじめに

10月9日より15日までの1週間、本市は第2回市政展を有隣堂ギャラリーで開催した。本年のテーマは「住みよい都市づくり」であり、昨年「子供を大切に市政展」とともに、本市行政の主軸をなすものである。

周知のように、横浜は戦災による大きな被害と今日までつづいている接収というきびしい制約のもとに復興の道をたどってきた。しかしそれは、市民のための都市復興というよりも産業基盤整備の市政であったといつてよい。

今日都市問題として公害・住宅・交通等あらゆる分野で急速な解決をせまられている状況にあるのも、こうした市政のあり方、すなわち市民不在の都市行政にあったといえる。本市はこうした過去の市政を反省し、生活環境整備の市政に転換するとともに、さらにこれからの都市づくりと未来の都市構想の確立について市民とともに考えていきたい。そして市民と手をつないで横浜の都市づくりを推進しよう。こうした趣旨で開催されたのが、この「住みよい都市づくり展」なのである。展示内容をかたんにのべると、まず「私たちはどういう環境に住んできたか」と題し、「生活の場」「働く場」「経済文化の場」をかたり、つぎに「私たちの横浜市は住みよい都市づくりをはじめた」と題して「交通」「上水道」「下水道」「住宅」「接収解除」「じんかい」「保健福祉」「公害対策」「消費者対策」「消防」「働く場」「教育文化」の12部門について産業基盤整備から生活環境整備へどのように移りつつあるをしめす。そして最後に横浜の都市づくりの基幹をなす六つの事業と、住宅都市・工業都市・港湾都市・国際文化管理都市の四つを、都市づくりの目標として市民に訴える。こうした3部構成の形式で写真・地図・模型を主として展示したのであるが、市民はこれをど

のように受けとめたであろうか。以下会期中に会場で行なったアンケート結果と市政モニターの手紙から、市民の声をきいてみよう。

2———市政展をみてどのように感じたか

「わかりやすいたいへん結構な催しであります」<52才男>、「かなり充実しています」<34才男>、「とても勉強にやくだった」<8才男>というおほめの言葉もあるが、いちばん多いのは市政展の意義を認めながらも、より一層の充実を望む声である。「もっと多くのものを展示していただきたい」<17才女>、「横浜の全貌がわかるがなんだかすこしものたりない、もうすこしくわしく説明がしてほしい」<50才男>、「広く浅くよりも、せまくてもよいから深く掘り下げてほしかった」<19才男>というのがそれである。

それでは具体的にどのような形が望ましいのか。「写真展ではない。他都市との比較において一目でわかるようなグラフ等資料がほしい」<44才男>、「もう少し種々の統計を出したら良いと思う」<21才男>、「なかなかよくできている。もう少し統計的資料が多くあればよかった」<20才男>というふうに統計資料をもとにしてじっくり考えたいという市民。「もつと絵、グラフをたくさん使用し、どんな人が見ても一目でわかるようにできたらなお良かったと思います」<34才男>、「写真だけでなく実際の模型なども展示してほしい」<15才男>、「れき耕栽培のような実物見本、模型をもうすこし多くしてほしい」<31才男>、「パノラマ・模型など立体的なものに乏しいのが残念で、そのため迫力に欠けるところが感じられます」<34才男>の声に見られるように展示の立体的構成を求める市民が多い。たしかに今回の展示は写真を主としたもので、統計・模型が少く、ま

とをいた批判といえよう。

写真の評判はどうだろうか。「とても簡潔また明確である」<15才男>、「写真の使いかたがよい」<25才男>、「ことに写真はみんなよいものばかりです」<34才男>、「写真はおもしろい」<27才女>、「市民の生活を奥深くまではいりこんでキャッチした写真、たいへん見ごたえがあります」<17才女>と大体において好評である。しかし、「もう少し、まづしい人達の生活も出してみんなにうったえるといいと思う」<17才女>、「このようによい所を多くみせずに、悪いところを徹底的に市民にうったえるようにした方がよい」<14才男>という青少年からの卒直な意見もあった。

したがって、「展示はうまくできているが、どこかきつめるものがない」<22才男>、「しかし、おざなりでないのは一応みとめられる」<59才男>というのが最大公約数といえよう。

こうした展示内容の不満はあったが、市民はそれでも多くのことを知った。「ぼくたちの住んでいるこの横浜市の現在の生活内容がよくわかりもう一度考えさせられた」<13才男>、「われわれ市民の生活を考えて、取りくんでいる人がいるということがわかりました」<17才男>、「日本人とかけはなれた外人の住宅がまざまざと見せつけられるようだ」<30才男>、「横浜市民として、3年間自分の市を知らなかったことが悔まれてならなかったが、現状分析→発展を一望にでき感銘深い」<22才男>、「横浜の都市は混雑しすぎると思った」<21才男>、「市政への誤解がとけたように感ずる」<18才男>、「私どもの住んでいる環境がいろいろ危険なものや有害なものが多いことにおどろいたが、一方ごみの処理等はだんだんよくなってきているのを写真でみてうれしく思った」<35才女>、そして「私は都市づくり展を拝見し、こんなにきびしい街がひそんでいるとは存

じませんでした。これを見て都市づくりは、本当にわれわれがまっすぐに見つめて今後のあり方を研究しなければならないようです」<48才男>と市民は都市問題にとりくもうと努力しはじめている。

もっともこうした好意的意見がすべてではない。「すべての細部がわからず」<44才男>は一応もともととしても、「新聞をみて期待したほどおもしろくなかった。みんな中途半端な感じである。<中略>こんな展示会なら家で新聞でもよんだ方がましのように思う」<39才男>ときびしい批判もあった。より多くの市民に、より豊富な内容を、よりわかりやすく展示するむずかしさを痛感した。

しかし大勢としては、市民は市政展の開催をつよくのぞんでいる。すなわち、「こういう催しは大いに結構、もっとやってほしい」<21才男>、「このような催しを定期的にやられることを望む」<17才男>、「わかりやすい。年に2回程度」<51才男>、「意義ある催しであるから今後とも定期的に開催してほしい」<18才男>が、「横浜市の困っている点をもっと具体的に市民に理解と協力を求めるという形で」<17才男>、「大いにPRしてより大勢の方々に見ていただき」<52才男>、「単に机上のものではないものにしてほしい」<27才男>、「いうだけでなく実行してもらいたい」<18才男>と市政への関心と注文がかなり強くあらわれていた。

市政モニターの手紙より――

「大横浜市の将来の構想を公開したことは、市民の日常生活に明るい希望と張合いを与えるものであり、大変有意義だと思います。市民は自己の住居の周辺等小範囲すなわち広くても自己の所属区程度に関心を持ち、ややもすれば自己中心的偏見におちいりやすいものですが、この種計画の展示は市全体から自己周辺を見直すという大局観、全

体観という点からもたいへん結構だと思います」<62才男>

「現状説明からはじまって当面の計画をかたり、そして最後に『みんなで考えよう、みんなできずこう、横浜の都市づくり』と、市民のアピールで終わるこの展示のレイアウトは見事なものだと感心しました。これは『住みよい都市づくり』への市民の共感と協力を呼びおこさせることでしょう。その意味で、この市政展は大変有意義であったと思われます。今後ますますPRを盛んにして、市民多数の認識を深め、それこそ『みんなで考える市政、みんなで築く横浜市』にしたいものです」<49才男>

「これらの住みよい都市づくり展を一人でも多くの市民から見てもらいたいと願っておりますが、はたしてどれだけの市民が関心を寄せて見てくれたでしょうか。より多くの市民の協力と理解をうため、期日と会場を指定して巡回展とすることは、いかがでしょうか」<31才男>

3-----都市づくり・未来の横浜を どう考えているか

この問題は、市民にもっとも関心の深いものであり、市政展においても都市づくりの目標とそれを達成するための六つの基幹事業を示しているのも、それをもとにして多くの提案がなされている。しかしながら、市民が会場の展示をみて、直ちに横浜のビジョンを考えるとすることは無理なことではあり、当然のことながらまとまった形で出されてはいない。市の構想に対する意見批判よりも、断片的な市サービスの要求や地域的な問題点の指摘が多かった。

まず、市の六つの事業についてどう受けとっただろうか。「将来の横浜が整備・発展していく姿が

たのもしくおもわれます」<21才男>、「計画が立派なのに少なからず驚きました。今後も良い案を沢山採用してよりよい横浜を建設して下さい」<20才男>という声もあるが「……計画等ももう少ししくわしく知りたい」<50才男>、「六つの柱大いに良、具体的なプログラムがほしい」という要望もでている。そして「都市づくり、未来の構想と、実現には多大な困難がつきまとうプランがあまりにも多すぎるようですね。<中略>例のベイブリッジ等六つの基本プランなど横浜発展に最大のキポイントであり、最大の困難がつきまとうことでしょうか、一市民として、より完ぺきに、よりはやく完成されることを祈ります」<32才男>とこれを支持する市民がいる反面、「住みよい都市は、すべて中央へ集中し、周辺部はそのぎせいになる。主幹道路は整備されても、その支道路は車の洪水で大変迷惑する」<44才男>と不安を表明する市民もある。これらは市の構想として市民に提案したものであり、こうした市民の声に耳を傾け、市民の不安をとりのぞかなくてはならない。

さらに、個々についての意見もよせられているからあげておこう。「市営高速度鉄道は、鶴見一荏田よりも、綱島一長後の方が緊急を要する。とくに新横浜一関内を第1期工事とすべきだと思う」<19才男>、「金沢埋立計画は、横浜市内唯一の自然海岸ですので、公害問題にも充分なる計画を願います」<40才男>

現在市は米軍接收地の解除をめざして努力をつづけているが、未来の都市づくりの中でこれに直接ふれていなかったため、接收地問題をとりあげた市民は多かった。「米軍接收地解除をもっと積極的に市民にアピールすべきだとおもう」<21才男>、「中区本牧の接收地は慎重にあつかって下さい」<24才男>、「接收地をなくせ」<30才男>、「接收地を住宅専用地区とすること」<22

才男>、「接收解除を早く実現して」<27才女>、がその一例である。これはさらに「接收地の取りかえしがなければ、総合的な計画もたてにくいことでしょう」<34才男>という批判にもつながっているのである。

将来の横浜についての明確なビジョンはかたらないが、予想しうる困難について警告を発したのもあった。「現在市内人口170万、昭和50年230万、昭和50年で人口収納限界。市域を拡大して人口増加の処理をなすべき必要あり」<44才男>、「6月ごろから社会増がにぶってきたようだが、50年度250万人までにおさえないと、それ以後の都市生活に混乱を引きおこすことは火を見るより明らかだ。周辺地域に流れこむ人口を適切な処置をとって抑制してもらいたい」<19才男>といった人口問題の不安は多い。「都市中心地区の整備計画で、モタモタしている間に小さなビルがどしどし建設されれば、どうなりますか」<53才男>もその一つである。

その他の市民の要望は、まことにさまざまであるが、道路舗装および拡幅・公園・子供の遊び場の増設・じんかい処理・河川の美化・区画整理・下水道完備・宅地造成取締等が多かった。これらはいずれも現在市が生活環境整備として重点をおいて進めているものであるが、将来においても一層充実してほしいという市民の願いを示すものであらう。

また、文化施設の拡充を望む声も多かった。「東京をとなりにして何かと不便を感じる。というのは、市民ギャラリーができたとはいえ、まだ大きな展覧会くたとえばツタンカーメン展等東京、京都で行なわれる」ができないのは淋しい」<21才男>、「図書館・博物館・美術館・劇場などの文化的な施設が非常に少いか、または全然ないかである。このようなものは、市民の文化的水準を高めるためにも、ぜひ必要でまたなによりも優先的

にやるべきである」<20才男>がそれである。
市民の声はこれのみではないが、今度のアンケート結果をみて、市民こそもっとも横浜を愛し、横浜を知るものであることを痛感した。われわれは、これら市民の要望を充分にくみとり、真に「だれでも住みたくなる都市づくり」の実現にまい進しなければならない。最後にアンケートを寄せた小さな、かわいい市民の声をのせて、しめくりとしよう。「もっとすばらしくして!」<8才男>。

市政モニターの手紙より——

「市関係者が、いかに将来の横浜、住みよい横浜を作りあげていくかに情熱をそそぎ、熱心でられるかがよくわかり、市のよりよき発展を願うものとしてうれしく思います。それと同時にわれわれ市民の一人一人が、この問題について関心を持ち討論し、積極的に意見を出し合う必要があると思われまます。今まで以上に市と市民の結びつきを密接にし、市民の声が直接市政に反映され、そしてわれわれの住むこの横浜を、みずから手で整備・改良し拡充していくことこそ、もっとも願わしいものでしょう」<21才男>。

「都市にはそれぞれの個性があるはずであり、またなければならぬと思う。東京は政治の都<首都>であり、大阪は商業都市、京都、奈良、鎌倉は昔ながらの観光都市であることは万人の認めるところである。しからはわが横浜市は個性はなにか。やはり神戸市とともに港湾都市であり、港が横浜のシンボルである。しかしシンボルはその真ざいであるだけだから、そのにくづけが必要になってくる。すなわち、工業都市、住宅都市、学園都市、および国際文化管理都市の性格をもあわせふくめて、市に栄養を供給し、さらにたれでも住みたくなる都市にすることが理想であると思う」<67才男>。

「私たちの毎日の生活には目もくれずに、ただミ

ナトヨコハマのための都市づくりだったら、市民から反撥をかう恐れもあるかもしれません。どうかそのような人たちの少いように、計画を押し進めて下さい。<中略>この計画が一人でも多くの市民に伝わり、一人でも多くの市民が協力しあい、輝かしい未来のために、私たちのまち、ミナトヨコハマのためにその日が一日も早くくることを期待いたします」<24才女>。

<伊藤>